

photopos 79

2020.1.9 ~ 2020.2.2

【神秘学ポエジー～風遊戯 第158集】

photo ヴァージョン

Photopos1951-1975

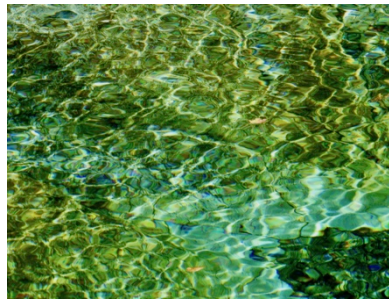
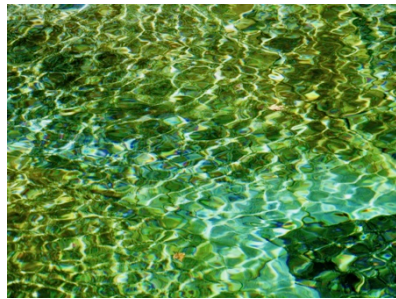
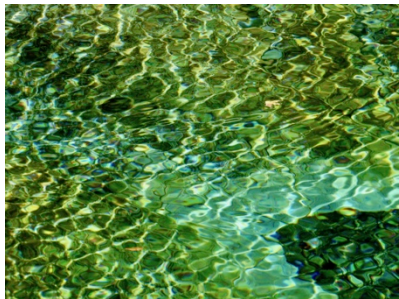
☆photopos-1951 2020.1.9



うらないは
おもてのうらを
なうものか

われのすがたを
うつしだす
かがみのあいだに
かみはあらわれ

ふるそなの
うらにかくれた
わがかおを
しめすがごとくに



※愛媛県久万高原町・面河溪にて

☆photopos-1952 2020.1.10



決められた形を
越えてゆく

形を名づけることを越え
名さえもたない形をつくる

求めるならば
越えてゆく

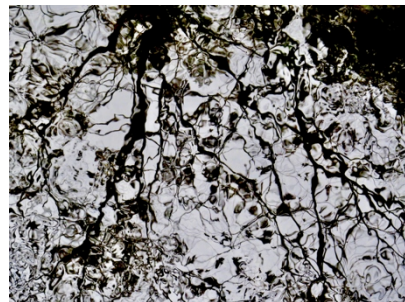
信じやすいものを越え
越えてゆけることをこそ信じる

壁があるなら
越えてゆく

壁で囲うことを越え
壁のそとをじぶんでつくる

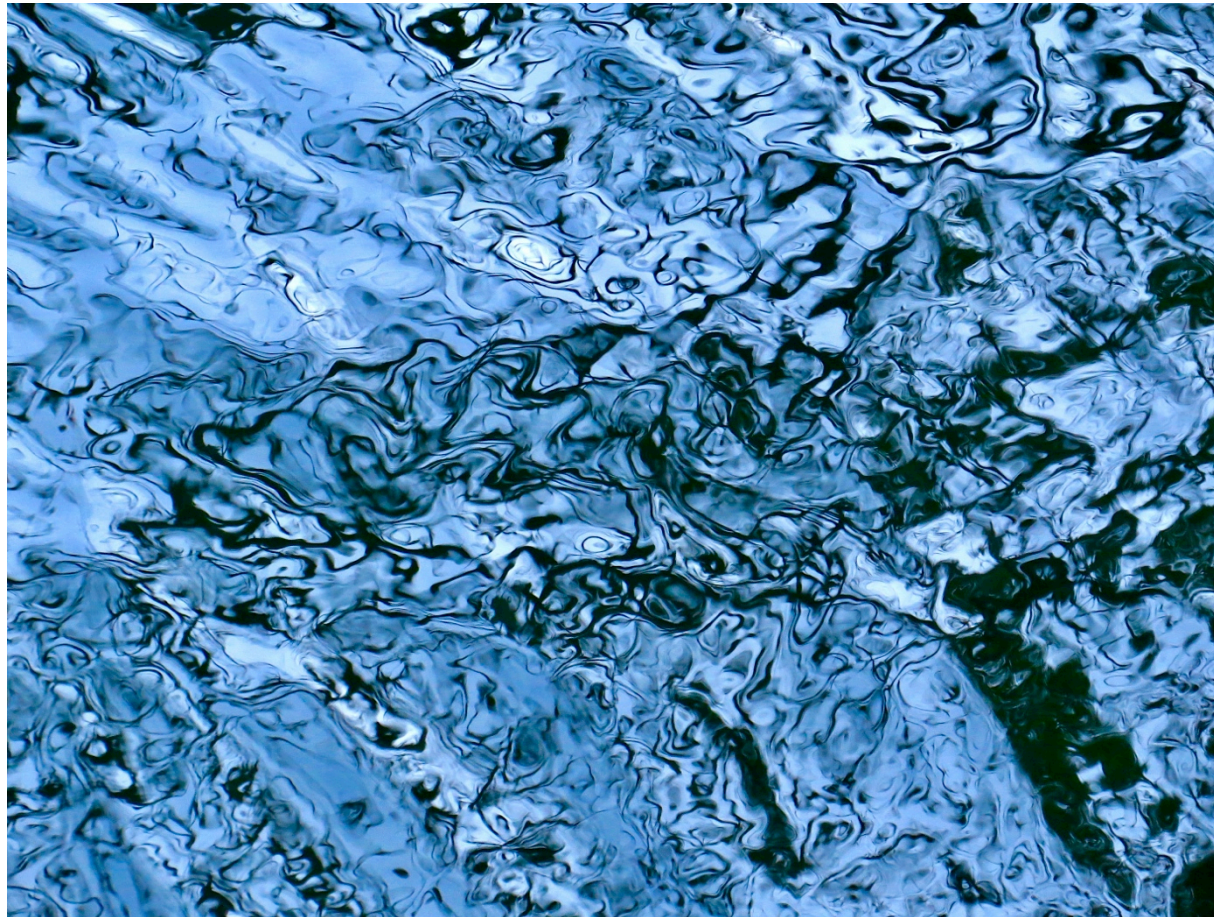
知りたいならば
越えてゆく

知ることを越え
知られるものとともにある



※愛媛県久万高原町・古岩屋にて

☆photopos-1953 2020.1.11



コスモスは
いちどカオスとなって
生まれなおさねばならない

殻と気づかぬまま
閉じ込められていたものから
解き放たれるように

死を超えたなかから
みずからを成すもののみが
あらたな生を紡ぐことができるのだから

教えられたものは
いちど懐疑のなかで
焼かれねばならない

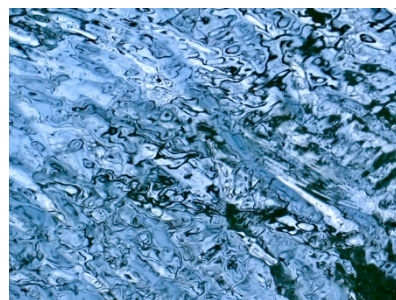
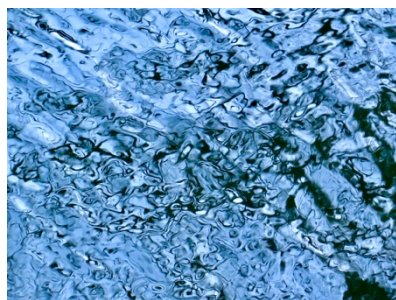
軛としらぬまま
軛となったものから
解き放たれるように

灰のなかから
羽ばたくもののみが
みずからが得たものとなるのだから

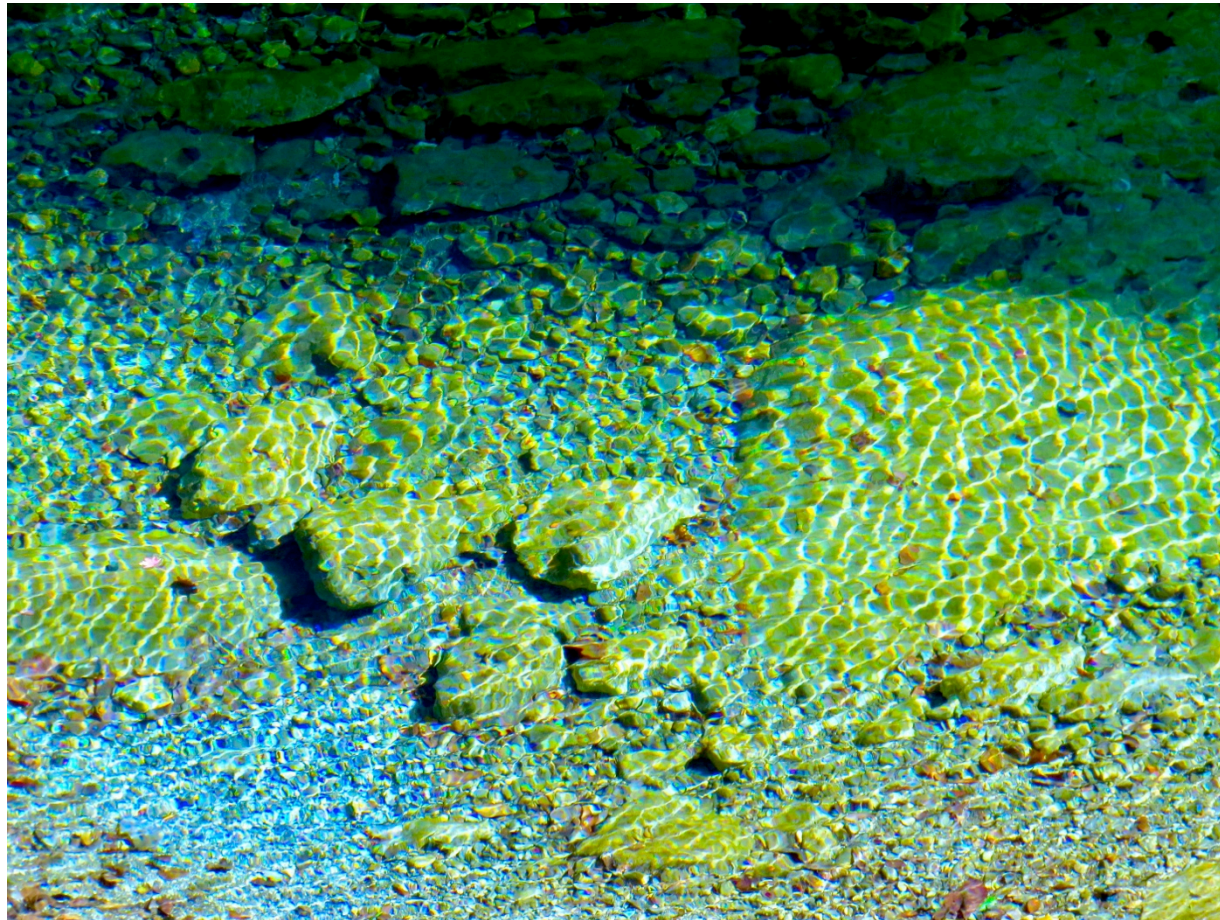
信じたものは
いちど不信のなかで
濾過されねばならない

枷としらぬまま
枷とともに生きることから
解き放たれるように

不信をも超えて
信じられるもののみが
自由における信となるのだから



※愛媛県総合運動公園にて



言葉に
負けそうなときは
言葉の外に出る

(そこにはただ)
(葉が漂うばかり)

意味に
潰されそうなときは
意味の外に出る

(そこにはただ)
(光が射すばかり)

思考に
雁字搦めになりそうなときは
思考の外に出る

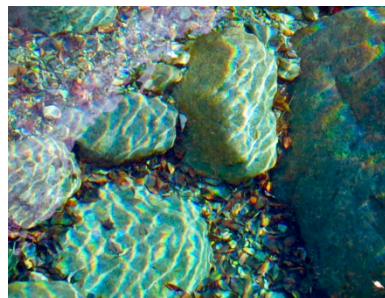
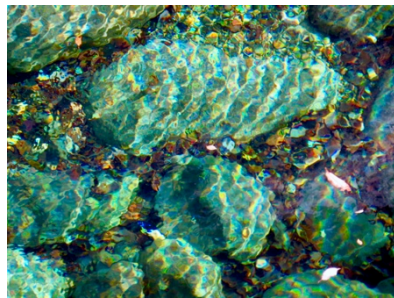
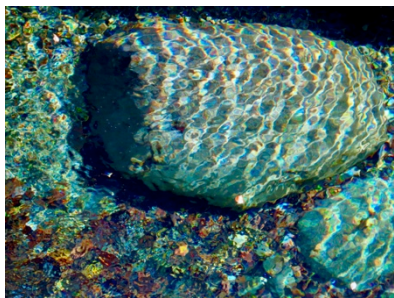
(そこにはただ)
(風が吹くばかり)

感情に
閉じ込められそうなときは
感情の外に出る

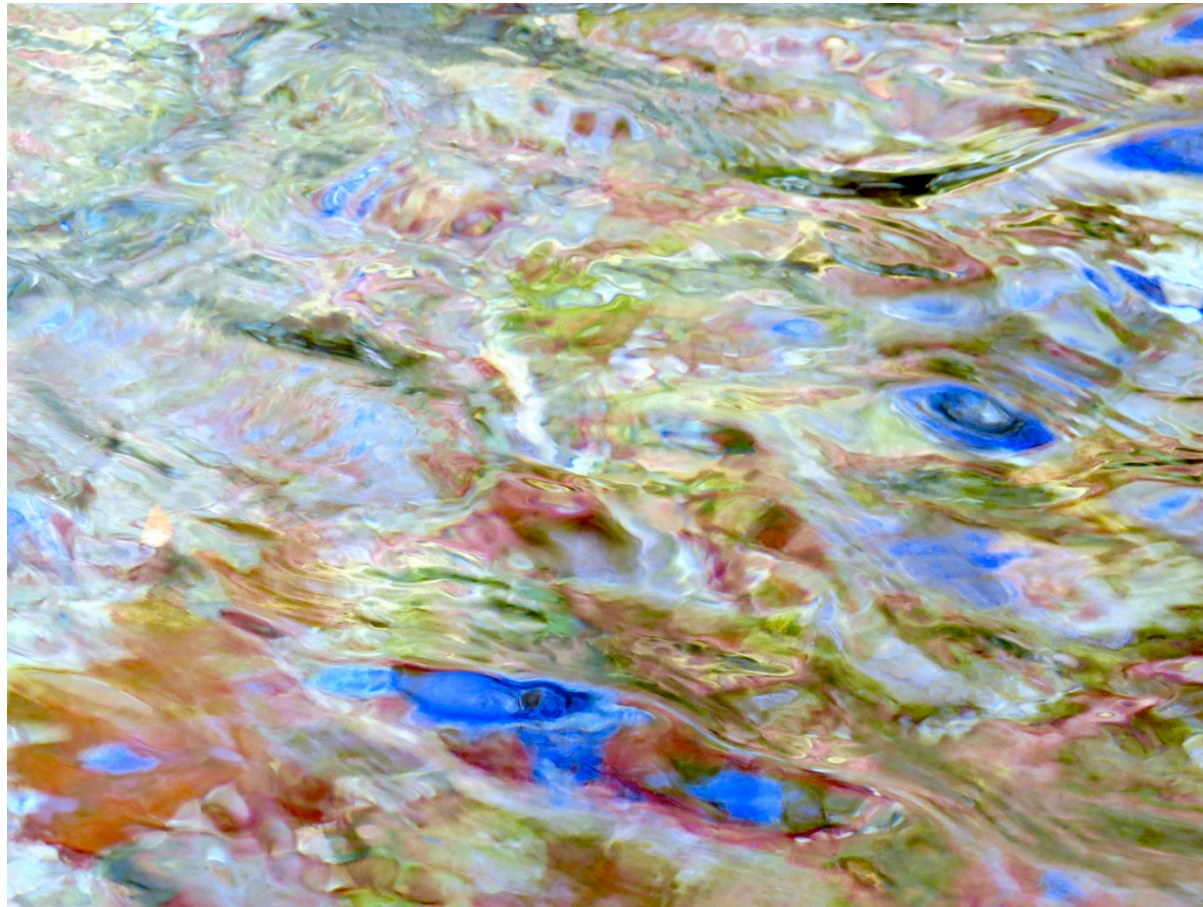
(そこにはただ)
(水が流れるばかり)

意志に
混乱してしまいそうなときは
意志の外に出る

(そこにはただ)
(石が光っているばかり)



☆photopos-1955 2020.1.13



思考が現実化する
そのときの思考は
もはや思考ではない

そのとき思考は行為でなければならない
それは魔法なのだ

魔法の基本は
それそのものになれば
現実化するということだ

言霊の現実化も
コトバそのものが
それそのものになること

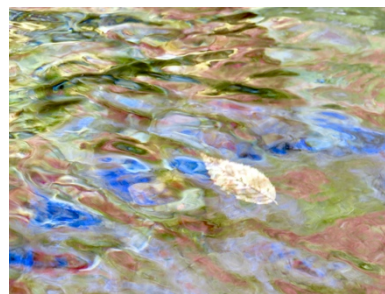
それは究極の
魔術的トートロジー

なぜ世界があるのか
世界は世界だからだ
世界を変えようとすれば
そのトートロジーのなかで
それを成立させなければならない

なぜ私があるのか
私は私だからだ
私を変えようとすれば
そのトートロジーのなかで
それを成立させなければならない

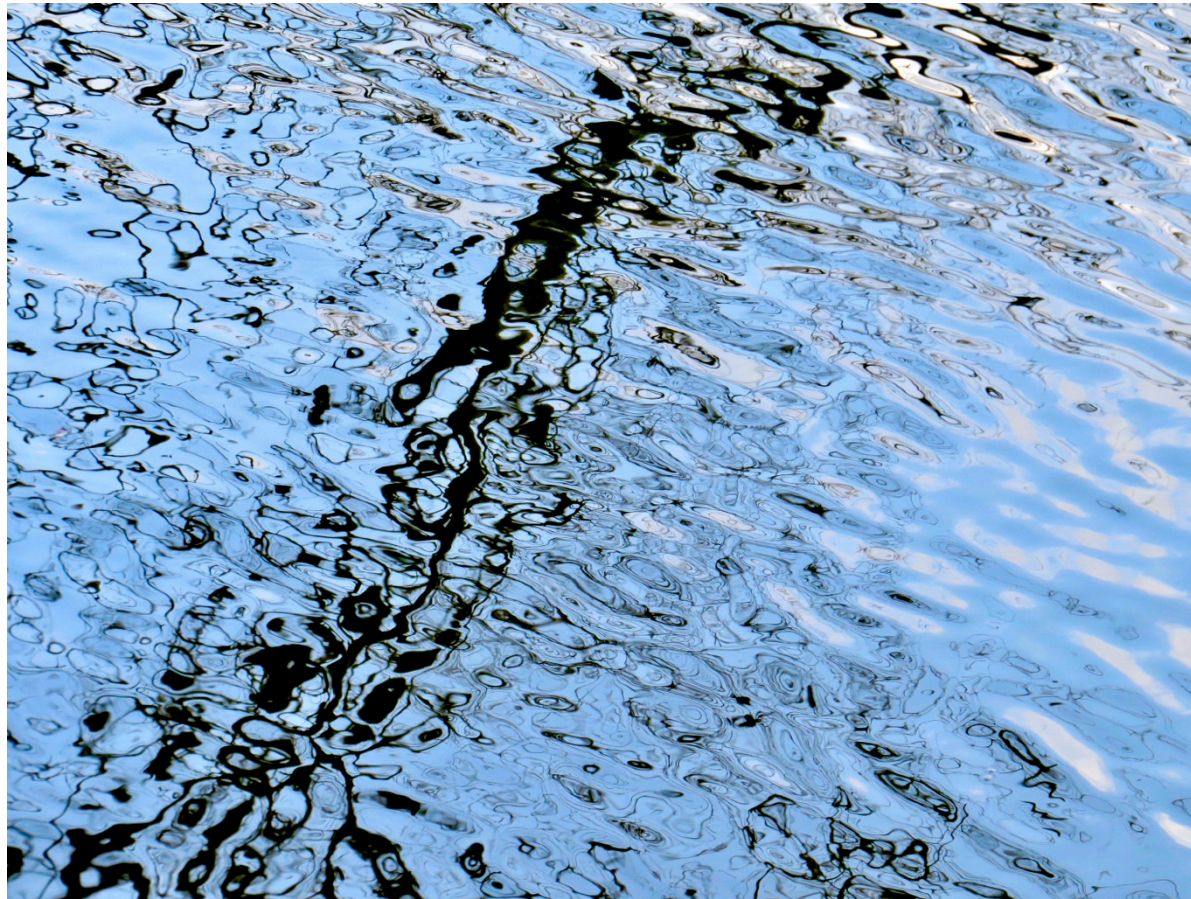
そこからすべての魔術ははじまる
けれど魔術は多く頽廃し
錯誤の道を歩んでしまう

トートロジーに
意味を入りこませるからだ
意味は現実を分裂させてゆき
別なものに変えてしまうことになる



※愛媛県内子町・小田深山溪谷にて

☆photopos-1956 2020.1.14



生きようとしているのに
生きる方法ばかりを求め
生きることそのものを
忘れてはいないか

生きる！
という神秘へ

見ようとしているのに
見る方法ばかりを求め
なにを見ようとしているのか
忘れてはいないか

見る！
という深みへ

知ろうとしているのに
知る方法ばかりを求め
なにを知ろうとしているのか
忘れてはいないか

知る！
という叡智へ

愛そうとしているのに
愛する方法ばかりを求め
愛することそのものを
忘れてはいないか

愛する！
という秘儀へ



※愛媛県総合運動公園にて

☆photopos-1957 2020.1.15



みんなでも
群れたりしない
みんなのなかには
無数のわたしがあるから

群れるとき
ひとは
じぶんのわたしが
見えなくなり
他者のわたしも
見えなくなる

ひとりでいても
閉じたりしない
ひとりのなかには
無数の他者があるから

閉じているとき
ひとは
じぶんの他者が
見えなくなり
じぶんの顔さえ
見分けがつかなくなる



※愛媛県久万高原町・面河溪にて



わたしのなかに
わたしがいて
そのわたしのなかにも
わたしがいるように

(わたしの外に)
(わたしがいて)
(そのわたしの外にも)
(わたしがいるように)

わたしはただただ
わたしをぐるぐると
さまよっているだろうか

宇宙のなかに
宇宙があって
その宇宙のなかにも
宇宙があるように

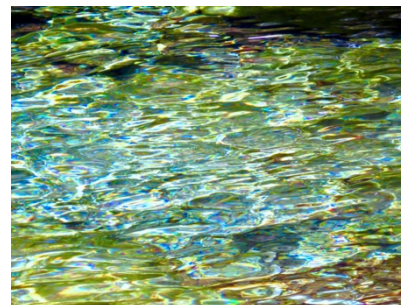
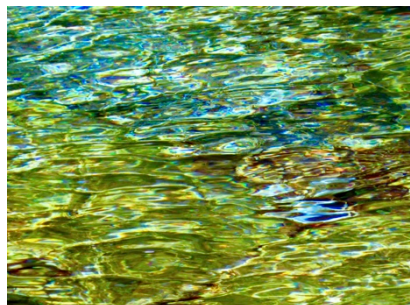
(宇宙の外に)
(宇宙があって)
(その宇宙の外にも)
(宇宙があるように)

宇宙はただただ
宇宙曼荼羅を生み出し
詠っているのだろうか

迷宮のなかに
迷宮があって
その迷宮のなかにも
迷宮があるように

(迷宮の外に)
(迷宮があって)
(その迷宮の外にも)
(迷宮があるように)

迷宮はただただ
迷宮であることそのものを
戯れているのだろうか





私は語り
私は騙る

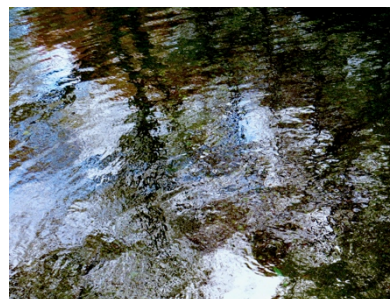
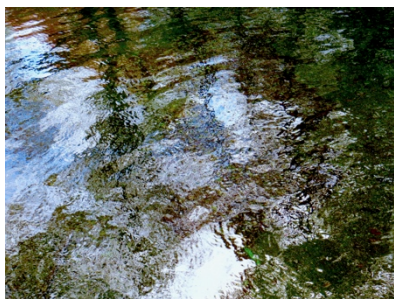
語り得ないことは
語らないまま
語り得るだろうことも
伝わらないだろうから
ほんとうには語らないまま

語り得ることとは
いったいなんだろう
私はいったい何を
語れるというのだろう

語ることは
つかのま世界に現れ
またたくまに世界に紛れてしまう

拾い上げた小石を海に投げるように
つかのま掬い上げる砂丘の砂を
ふたたび砂丘にのみこませるように

それでもときおり
私は無性に語らざるを得なくなる
たとえ語り得ないとしても
私は世界のなかでたしかに生きているのだと



☆photopos-1960 2020.1.18

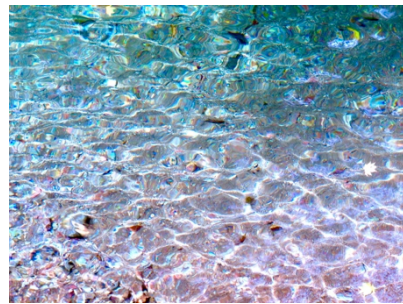


あのところから
いまをみて
いまから
あところをみる

(いまという)
(ふしぎ)
(あところという)
(なつかしいいま)

いまから
ずっとさきをみて
ずっとさきから
いまをみる

(いまという)
(はじまり)
(ずっとさきという)
(なぞのようないま)



※愛媛県内子町・小田深山溪谷にて

☆photopos-1961 2020.1.19

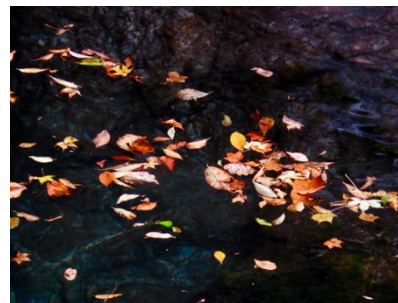
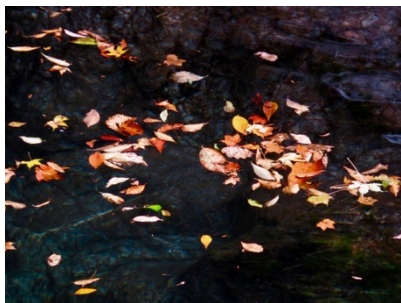


光あるときは
光とともに歩め
けれど
光なきときを歩むときのために
闇で見る目をこそ持たねばならぬ

おもてを見せうらを見せながら
次々と流れゆく落ち葉のように
光の裏には闇があり
闇のなかでこそすべては生まれ
そしてつかのま光を歩む

闇には音の門がある
いのちの深みを聴く耳だ
光とともに歩むときは
いのちの深みとともに歩め

闇のなかでこそ
いのちは育まれてゆく
いのちの深みにこそ
ほんとうの光の種はあるからだ



※愛媛県内子町・小田深山溪谷にて

☆photopos-1962 2020.1.20



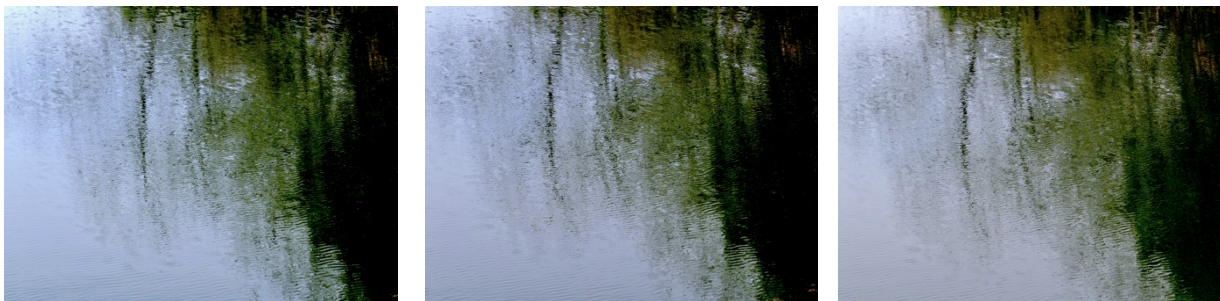
いつでもない
時が
いまとなり

どこでもない
場所が
こことなり

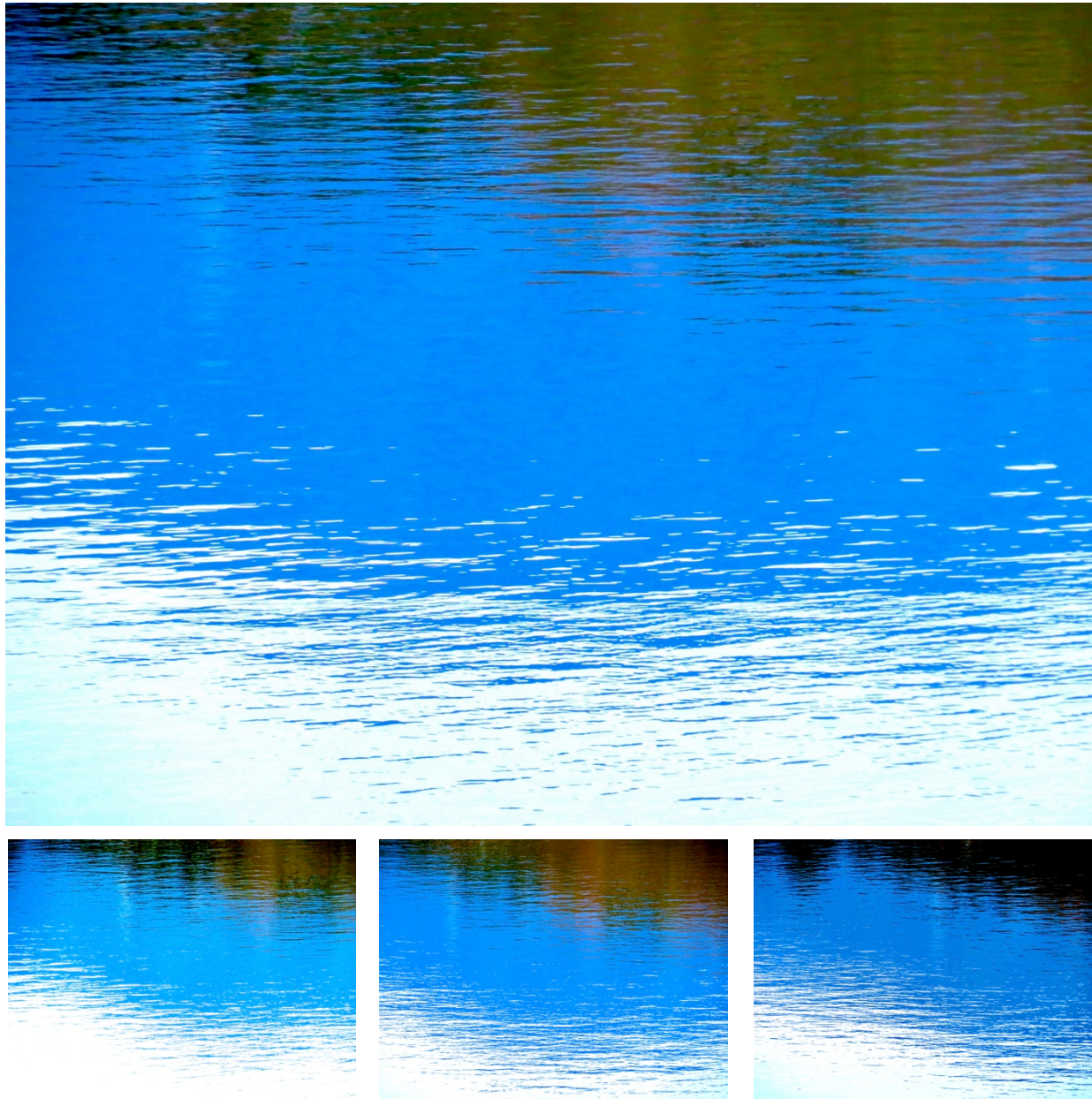
だれでもない
私が
名で呼ばれ

だれでもない
あなたを
私は名で呼び

いまここから私は
あなたとともに
世界を紡いでゆく



※愛媛県総合運動公園にて



拝啓
ぼくの夢

「君にまだずっと
恋してるって言ったら
信じますか？」

はじめて君に
手紙を書いたのは
いつのことだったろう

ぼくはいつも
君に恋していた

けれど君はぼくからはあまりに遠く
ときに君のことを
忘れたいと思ったことさえある

けれど忘れることはできずにいた
君はぼくの生きることそのものだったから

この手紙が君に届いているかどうか
それさえわからないけれど
ぼくはこうして
君に手紙を書きつづける

ぼくは変わっていき
そのことで
君もまた変わっていきだろうけれど
君に恋してることだけは
ずっと変わらないから

☆photopos-1964 2020.1.22



せかいのはじめと
せかいのおわり

せかいのはじめには
なにがあり
せかいのおわりには
なにがあるのだろう

せかいのはじめにあったものは
せかいのおわりにもあるのだろうか
そして
そのあいだにはなにがあるのだろう

それとも
せかいはえいえんのまま
ゆめをみているだけなのだろうか

わたしのはじめと
わたしのおわり

わたしのはじめは
どこにあり
わたしのおわりは
どこにあるのだろう

わたしのはじめであったものは
わたしのおわりにもあるのだろうか
そして
そのあいだにはなにがあるのだろう

それとも
わたしはえいえんのまま
ゆめをみているだけなのだろうか



※愛媛県総合運動公園にて

☆photopos-1965 2020.1.23



ぼくの見ている世界は
ぼくの心が切り取った
世界のかたちなのかもしれない

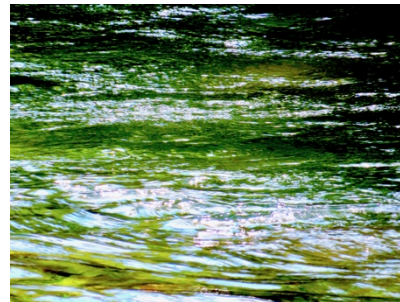
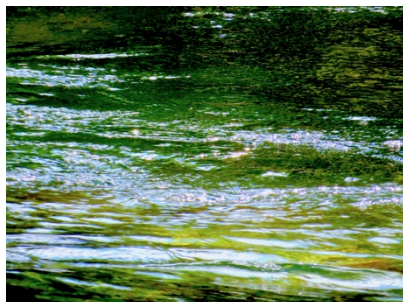
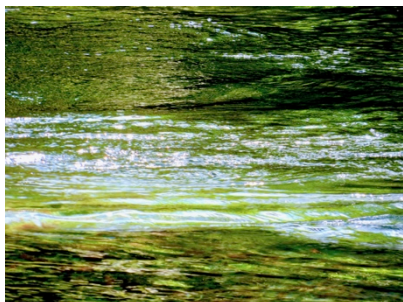
世界という不思議は
ぼくの心の影絵にもなっているから
世界を変えようとするならば
その影絵を変えなければならないだろう

心という鋏をたしかに使いこなし
世界を美しく切り出すことのできるように

ぼくの語っている世界は
ぼくが言葉が語っている
世界の物語なのかもしれない

世界という物語は
ぼくが言葉で演じられたものにもなっているから
物語を変えようとするならば
その演じ方を変えなければならないだろう

言葉という魔法をたしかに操り
世界を美しく描き出すことのできるように



※愛媛県内子町・小田深山溪谷にて

☆photopos-1966 2020.1.24



見るためには
見る力が必要だ

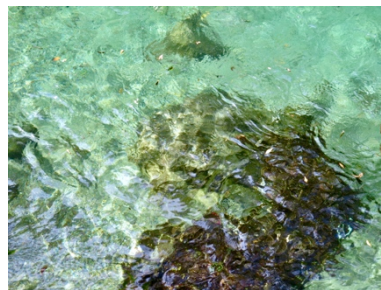
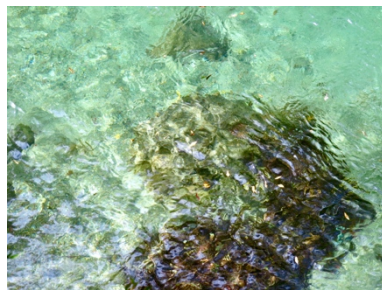
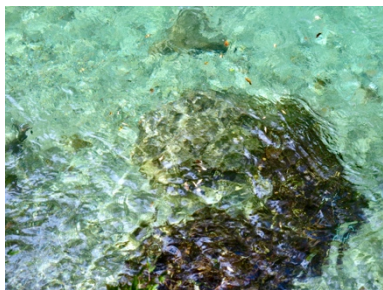
(見る力なくして)
(見ようとすれば)
(光に眼を損なってしまうだろう)

知るためには
知る力が必要だ

(知る力なくして)
(知ろうとすれば)
(知識に脳を喰われてしまうだろう)

愛するためには
愛する力が必要だ

(愛する力なくして)
(愛そうとすれば)
(炎に胸を焼かれてしまうだろう)



※愛媛県内子町・小田深山溪谷にて

☆photopos-1967 2020.1.25



なにを問うのか
問うことで
汝そのものが答えとなる

新たな答えを求めるならば
みずからが新たな問いにならねばならない

なにを語るのか
語ることで
汝そのものが物語となる

新たな物語を求めるならば
みずからが新たな言葉と語りにならねばならない

なにを認識するのか
認識することで
汝そのものが世界となる

新たな世界を求めるならば
みずからが新たな認識にならねばならない



※愛媛県内子町・小田深山溪谷にて

☆photopos-1968 2020.1.26



それは
それだが
それだけではないはずだ

それが
それでしかないとき
世界は閉じてしまうから

ここは
ここだが
ここだけではないはずだ

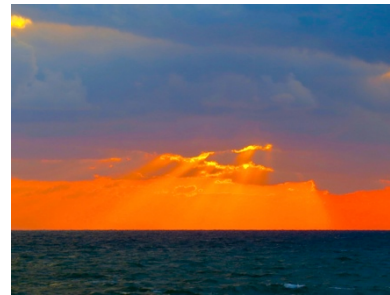
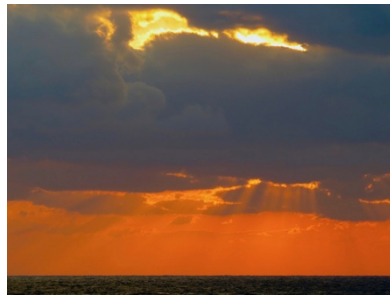
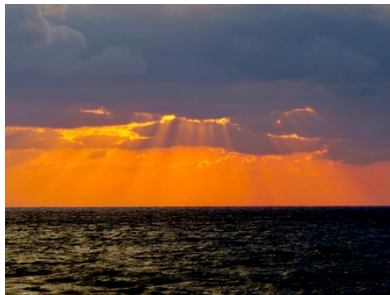
ここが
ここでしかないとき
彼方は見えなくなってしまうから

いまは
いまだが
いまだけではないはずだ

いまが
いまでしかないとき
時は語らなくなってしまうから

わたしは
わたしだが
わたしだけではないはずだ

わたしが
わたしでしかないとき
汝は不在になってしまうから



※愛媛県松山市・重信川河口にて

☆photopos-1969 2020.1.27



てのひらをひろげたとき
ひらかれるじゆうがある

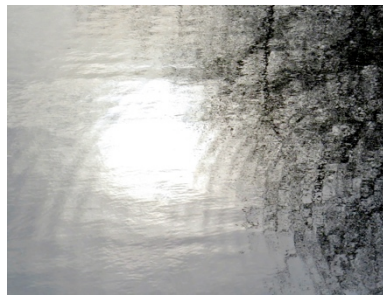
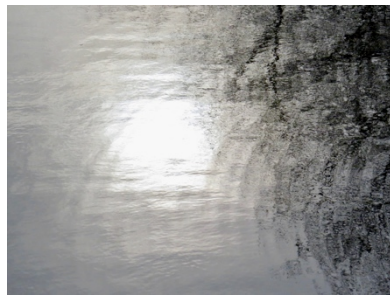
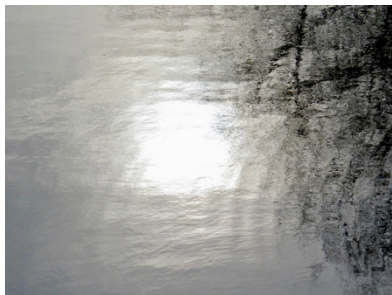
だれでもないとき
わたしになれるわたしがいる

どこにもいないとき
どこにでもいられるわたしがいる

すべてがはじめてのとき
なんにでもなれるわたしがいる

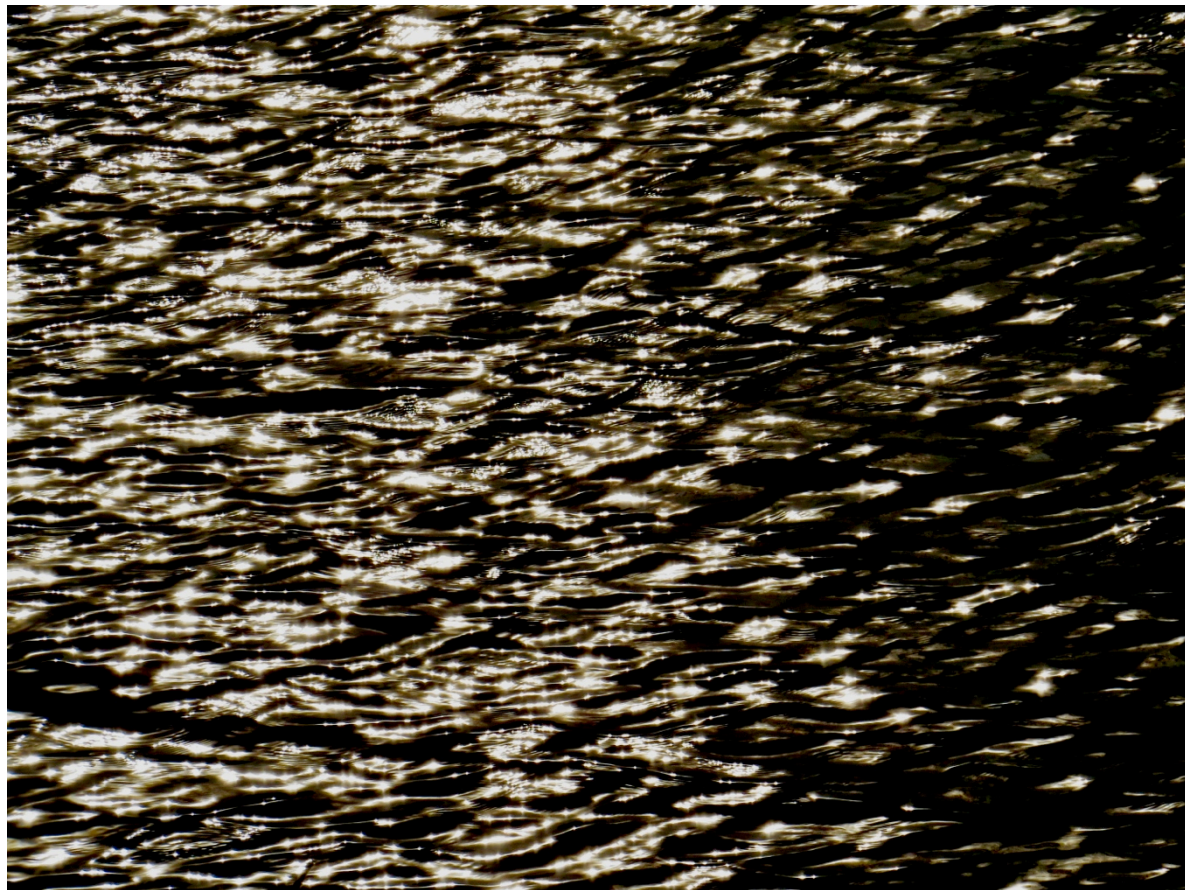
おなじものがひとつもないとき
すべてのものはとくべつになる

ひとつのなかにすべてがあるとき
すべてのなかにひとつがある



※愛媛県総合運動公園にて

☆photopos-1970 2020.1.28



わからないまま
ともに
ゆれている

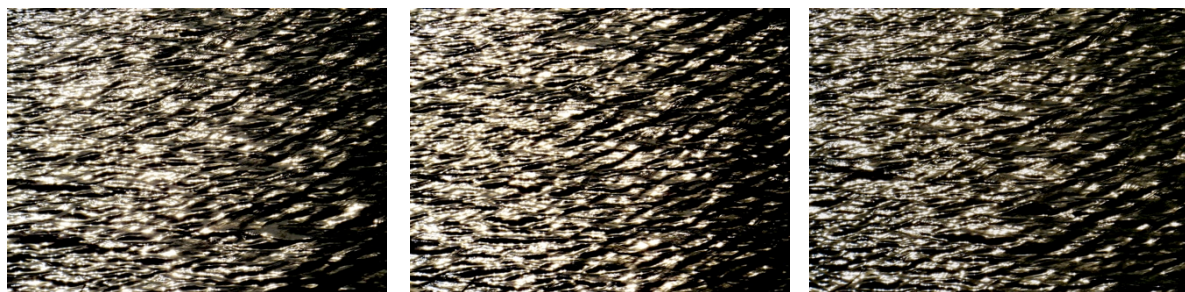
ゆれることで
よりそえるように

見えないまま
ともに
話している

話すことで
つながれるように

知らないまま
ともに
歩いている

歩くことで
道ができるように



※愛媛県総合運動公園にて

☆photopos-1971 2020.1.29



無辺世界を旅するならば
方角はすでに意味を持たない
定められた方角は
過去からのそれにすぎないからだ

たとえ岸辺が見いだされたとしても
かりそめのひとつの戒律にすぎない
それは外への旅を戒めるものでしかないから
ひとときの眠り以上の意味を持ちはしない

無辺世界を旅するならば
愚行もまたひとつの勇気であろう
賢もまた外への道を拒む手段でしかない
求めるならば愚の内なる賢をこそ求めるのだ

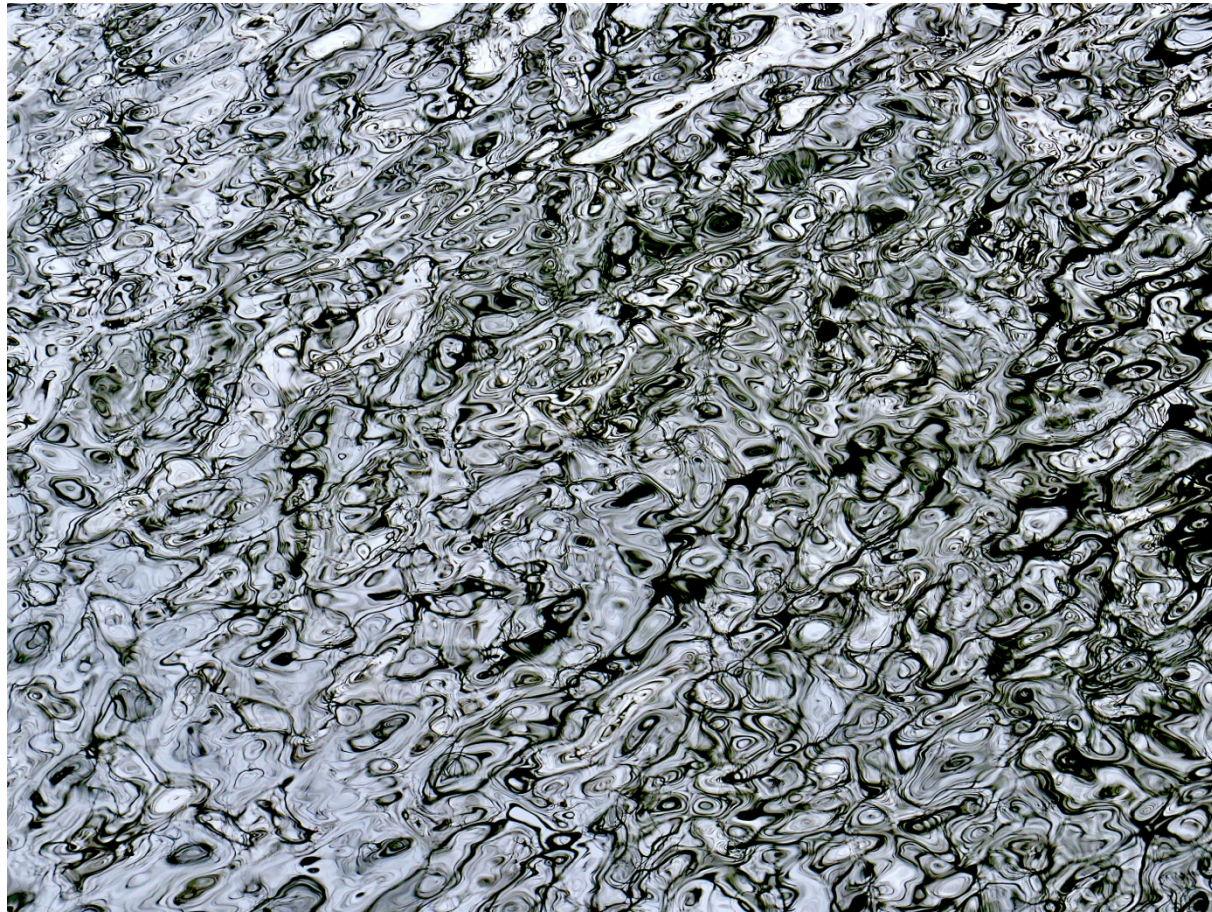
終わりなきものは
始まりをも持ちえない
迷いさえそこでは成り立たない
正しき道からの逸脱ではあろうが
道の正しさなどだれにもわかりはしない

無辺世界で求めるものは
形なき形のなかの自在である
常に自在の姿のままに
新たに舞い続けなければならないのだ



※愛媛県久万高原町・面河溪にて

☆photopos-1972 2020.1.30



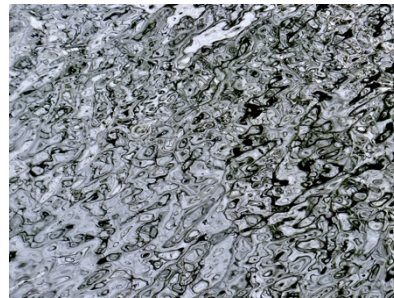
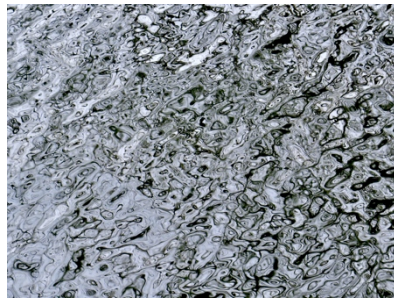
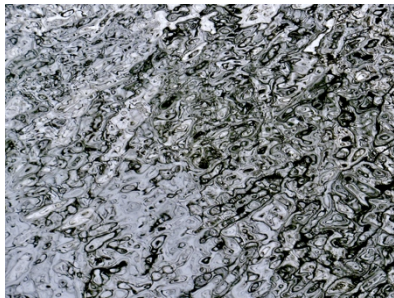
迷宮は
どこからはじまり
どこで終わるのか

生まれ生まれ生まれて
生の淵源を知らず
死に死に死んで
死の果てを知らぬまま

生と死の如く
我と汝もまた
私の彼方
汝の彼方に
メビウスの環のごとく
迷宮の旅路を辿り

一なるものは
二となり
三となり
やがて
一なるものへと帰還し
その果てしなきめぐりのなかで

言葉は紡がれ
光は散乱し
次元は交錯し
万象は迷宮のごとく
重々無尽の姿を遊び



※愛媛県総合運動公園にて

☆photopos-1973 2020.1.31



花なきゆえに
花は咲き

(秘されてこそ花)

光なきゆえに
光は照らし

(秘されてこそ光)

形なきゆえに
形は創られ

(秘されてこそ形)

心なきゆえに
心は想い

(秘されてこそ心)

声なきゆえに
声は詠い

(秘されてこそ声)

時なきゆえに
時は流れ

(秘されてこそ時)

我なきゆえに
我は顕れ

(秘されてこそ我)



※愛媛県総合運動公園にて

☆photopos-1974 2020.2.1



風に流され
風に逆らい

(風来坊を気どってみたり)

ひとの道はひとの道
わたしの道はわたしの道

(パブロフの犬にはなりたくないから)

モヤモヤのときは
モヤモヤのなかにおいて

(叫んだっていい)

深呼吸してみたり
歩きまわってみたり

(瞑想してみたっていい)

カオスのなかだから
見えてくるものがあったり

(枯れ尾花だっていいじゃないか)

問いという網を
海に投げ入れてみたり

(ステキな魚が捕れるかも)

そして迷路を
道に変えるんだ

(わたしだけの道に)



※愛媛県総合運動公園にて

☆photopos-1975 2020.2.2



分けられないのに
分けてしまうと
変われなくなってしまうな

うつつ

同じじゃないのに
同じにしまうと
違いがお化けになってしまうな

うらめしや

言葉にならないのに
言葉にさせられてしまうと
心が縛られてしまうな

むむむむむ

測れないのに
測ってしまうと
機械になってしまうな

ういーんういーん

教えられないのに
教えてしまうと
問いのない答えになってしまうな

すっからかーん

終われないのに
終わってしまうと
生まれなくなってしまうな

じえんど



※愛媛県松山市大浦にて